

福島薬剤師会 令和6年8月研修会レポート

日時：令和6年8月21日 19:15~21:00

場所：アクテイおろしまち

研修委員 安西 亮介

【特別公演】「処方箋から診断を読み解く ～薬剤師と医師の連携のために～」

堀切眼科 堀切 紘子先生

<アレルギー性結膜炎>

季節性、通年性、春季カタル、アトピー性、巨大乳頭結膜炎の5種類

女性に多い

症状 かゆみ 98% 充血 65% 涙目 58%

問診→アレルゲンの接触の有無、いつから症状あるか、アレルギー素因の有無

くしゃみ・鼻水の合併症の有無

検査→眼瞼結膜、眼球結膜に所見がでている

○巨大乳頭結膜炎

ソフトコンタクト装着者に多い

症状が全くない人もいる

コンタクトが上にずれる、コンタクトに白いねばねばがつく等

○春季カタル

春～夏に増悪

10歳前後に後発

夕～起床時にかゆみ多い

検査→非特異的 IdE 抗体検査、皮内テスト

乳頭切開、免疫抑制剤の使用



薬物療法

抗アレルギー薬、ステロイド、抗アレルギー薬が不十分のときは免疫抑制剤

減感作療法によるアレルギー体質の改善

人口涙液、洗眼によりアレルゲンを洗い流す。防腐剤の入っていない点眼を頻回する

点眼でのコントロールつかないときや、鼻炎などの症状ある時は内服薬

透析患者の花粉症治療として貼付剤を使用するときもあり

〈白内障〉

症状

- かすんで見える
- 急に老眼がすすんだように感じる
- 水晶体が濁り、視力低下やまぶしさ感じる

原因

ブドウ膜炎、ステロイドによるもの、加齢による水晶体の酸化など

問診

紫外線をよく浴びているか、目をぶつけていないかなどの確認

手術

どのタイミングで手術しても結果は同じである。白内障は完治する
患者が希望したタイミングで手術する

治療

目薬、サプリ（糖化・酸化を抑制するもの）

〈緑内障〉

何らかの原因により、視神経が障害され視野・視力に異常が生じる
眼圧が高いと、視神経が圧迫され傷んだ時に視野狭くなる
眼圧は、夏下がり冬高くなる傾向。加齢により下がる。
生活習慣病にならないよう気を付ける

○正常眼圧緑内障

- 最も患者数多い
- 40歳以上の3.6%（全緑内障患者の60%）
- 視野障害が進行する
- 視神経乳頭における血液の循環に障害がある
- ほとんどの人は症状なく、自覚した時にはかなり進行していることが多い

検査

視力、眼圧、隅角、眼圧検査

治療

- コンプライアンス、副作用を考え点眼薬の選択
- 手術は最終手段

手術

レーザー・虹彩切開、線維柱帯切開手術